

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

		事業区分	重点
事業名	ベンチプロジェクト		
所管課	保健福祉局総務企画部 地域福祉課	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
開始年度	平成29年度	背景	誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる、健康福祉のまちを実現していくため高齢者をはじめとして誰もが気軽に外出したくなるまちづくりを進める観点から、バス停など身近なところへベンチ設置を促進していく。
根拠法令	福岡市ベンチ購入費補助金交付要綱		
行政計画	なし		

基本計画			
施策コード	主	1-1-1	施策成果指標
	再		なし
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり		
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市民等	実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①地域(自治協)に対してプロジェクトを周知し、要望の提出や補助金活用による設置を働きかけ ②バス事業者や三師会、社会福祉法人等へ設置の働きかけ ③庁内にベンチ設置指針を広報し、関係課長会議等で協力を依頼 ④バス停付近や地域が要望する道路沿いの市有地・歩道へベンチを設置 【R1年度設置数】保健福祉局予算:16箇所25基, 他局予算:4箇所6基, 道路管理者予算:2箇所2基 ⑤バス停付近や地域が要望する道路沿いの民有地に設置されるベンチに対し、1基あたり最大10万円を補助 (西鉄バス停付近は、西鉄と市で半額ずつ負担) 【R1年度設置数】 5箇所7基 ⑥ふくおか応援寄付により寄付を受け付け、ベンチ設置に活用	事業費(千円)	令和元年度決算額(見込額) 歳出合計 7,852 歳入 特定財源 207 一般財源 7,645 前年度決算額・翌年度予算額 年度 H30 R2 歳出合計 9,865 18,509 歳入 特定財源 1,094 3,000 一般財源 8,771 15,509
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる、健康福祉のまちを実現していくために、バス停など身近なところにベンチを設置することで高齢者をはじめとして誰もが気軽に外出したくなるまちになっている。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ・地域(自治協)に対してプロジェクトを周知し、設置要望を受付 ・バス停付近や地域が要望する道路沿いの市有地等へベンチを設置 ・民有地の地権者等へベンチ設置を働きかけ、補助金を交付	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ・ベンチ設置要望数増加 ・市有地等へのベンチ設置数増加 ・ベンチ購入補助を活用したベンチ数増加	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ・外出や目的地間の移動が容易になる。 ・新たな交流や賑わいが生まれる。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ・運動時間や目的地滞在時間が延び、健康増進に繋がる。 ・健康な市民が増加し、市民生活が活性化される。 ・住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。																																																																																	
活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">市有地等へのベンチ設置箇所数</td> <td>目標</td> <td>55</td> <td>70</td> <td rowspan="2">85</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>68</td> <td>88</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>123.6%</td> <td>125.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	市有地等へのベンチ設置箇所数	目標	55	70	85	R2年度	実績	68	88	85	達成率	123.6%	125.7%				目標				R年度		実績						達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外出時、バス停に屋根やベンチなどが少ないことで困っている人の割合</td> <td>目標</td> <td>16.3%</td> <td>15.7%</td> <td rowspan="2">15.1%</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>調査未実施</td> <td>18.9%</td> <td>15.1%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>83.1%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">外出時、歩道にベンチなどが少ないことで困っている人の割合</td> <td>目標</td> <td>10.7%</td> <td>10.3%</td> <td rowspan="2">9.9%</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>調査未実施</td> <td>12.7%</td> <td>9.9%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>81.1%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	外出時、バス停に屋根やベンチなどが少ないことで困っている人の割合	目標	16.3%	15.7%	15.1%	R2年度	実績	調査未実施	18.9%	15.1%	達成率	-	83.1%			外出時、歩道にベンチなどが少ないことで困っている人の割合	目標	10.7%	10.3%	9.9%	R2年度	実績	調査未実施	12.7%	9.9%	達成率	-	81.1%		
指標の内容	年度			実績		目標																																																																															
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																
市有地等へのベンチ設置箇所数	目標	55	70	85	R2年度																																																																																
	実績	68	88		85																																																																																
	達成率	123.6%	125.7%																																																																																		
	目標				R年度																																																																																
	実績																																																																																				
	達成率																																																																																				
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																	
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																
外出時、バス停に屋根やベンチなどが少ないことで困っている人の割合	目標	16.3%	15.7%	15.1%	R2年度																																																																																
	実績	調査未実施	18.9%		15.1%																																																																																
	達成率	-	83.1%																																																																																		
外出時、歩道にベンチなどが少ないことで困っている人の割合	目標	10.7%	10.3%	9.9%	R2年度																																																																																
	実績	調査未実施	12.7%		9.9%																																																																																
	達成率	-	81.1%																																																																																		

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	バリアフリーのまちづくり推進	
所管課	保健福祉局総務企画部 地域福祉課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成10年に「福祉のまちづくり条例」を施行し、高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての人が安全かつ快適に利用できるよう、建築物や旅客施設などの整備基準を定めて都市施設のバリアフリー化を推進してきた。
開始年度	平成10年度	
根拠法令	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	
行政計画	福岡市バリアフリー基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-1-1	ユニバーサルデザインの取組みへの評価(R1:44.5%) (ユニバーサルデザインの取組みが進んでいると思う市民の割合)	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり			
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進		施策成果指標	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市民 特に、高齢者や障がい者等、身体の機能上の制約を受ける方
	対象をどのような状態にしたいのか 「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方にに基づき、建築物や旅客施設、道路、公園などの都市施設が、誰もが安全で快適に利用できるようになっている。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①近年のバリアフリー法や各種ガイドラインなどの改正をふまえ、学識経験者、専門家、利用者からなる研究会を設置し、「福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル」を改訂
	②福祉のまちづくり条例及び福岡市バリアフリー基本計画(ロードマップH29～R2)に基づき、道路や旅客施設等のバリアフリー化を推進
	③車いす利用者おでかけマップを利用したモニターツアーを開催(1回)
	④市民向け講座の充実、特に子ども向け(小4対象)のバリアフリー教室を開催(10回)
	⑤バリアフリーのまちづくりサポーター制度について、施設所管課へ制度活用働きかけを行い、実施(2回)
	⑥職員向けのバリアフリー研修を実施(3回、70名)。昨年度は、市民からの苦情を契機に区からも依頼有り

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	7,159	
歳入	特定財源	47
	一般財源	7,112
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	6,394	11,843
歳入	特定財源	66 115
	一般財源	6,328 11,728

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	・バリアフリー基本計画による事業の推進及び検証 ・出前講座や子ども(小4)向けバリアフリー教室など、市民向け講座の充実 ・まちづくりサポーター制度活用促進 ・職員向けのバリアフリー研修の実施	・誰もが安全で利用しやすい施設づくりが進む。 ・多様な人々の存在をお互いに理解し、支え合う「心のバリアフリー」が浸透する。 ・施設の改修などにおいて、よりきめ細やかなバリアフリー化が進む。 ・バリアフリー研修の受講者数が増す。	・安全で快適に移動や施設の利用ができる。 ・バリアフリー化の促進に関する市民の理解が増す。 ・バリアフリーへの理解が深まり、支え合う心が生まれる。	すべての市民が日常生活における自立や社会参加できるようになる。		
	指標の内容	実績	目標	実績		
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	30.0	32.0		R 年度
実績		29.0	70.0	32.0	-	
達成率		96.7%	218.8%			
	目標				R 年度	
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	障がい者差別解消条例施行関連経費	
所管課	保健福祉局障がい者部 障がい者支援課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)が、平成25年6月に公布され、平成28年4月から施行された。
開始年度	平成27年度	
根拠法令	障害者差別解消法、福岡市障がい者差別解消条例	
行政計画	なし	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-2-1	一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合	
	再	1-6-2		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	すべての人の人権が尊重されるまちづくりと男女共同参画の推進			
事業群	人権尊重のまちづくり			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	国民(市民)、民間事業者、市職員等
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	全ての国民(市民)が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障がいを理由とする差別の解消を推進する。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①事業者や市民を対象とする各種説明会、研修会、イベント等の際に、福岡市障がい者差別解消条例のパンフレットやチラシを配布し、広報・啓発を実施した。
	②福岡市障がい者差別解消条例に基づき、相談窓口などにおいて相談対応を実施した。
	③福岡市障がい者差別解消推進会議などの附属機関を運営した。
	④障がい者差別解消条例に関する出前講座を実施した。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	11,068	
歳入	特定財源	4,369
	一般財源	6,699
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	5,454	17,541
歳入	特定財源	1,578 7,401
	一般財源	3,876 10,140

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																																					
	<ul style="list-style-type: none"> 差別の解消に関する広報・啓発 差別に関する相談対応の実施や相談窓口の運営 差別事案の調査、行政指導 条例に基づき設置する附属機関の運営 条例に関する逐条解説の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 市民、民間事業者、市職員等の障がいを理由とする差別に対する意識や合理的配慮の取組みが啓発される。 実効的な相談体制や紛争解決体制が構築される。 実際に起きた障がいを理由とする差別事案の解決に取り組む。 	不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供が徹底され、障がいを理由とする差別の解消が促進される。	障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会になる。																																																																																					
	活動の指標	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">出前講座実施回数</td> <td>目標</td> <td>-</td> <td>8</td> <td></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>100.0%</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">障がい者差別相談件数</td> <td>目標</td> <td>-</td> <td>30</td> <td></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>28</td> <td>72</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>240.0%</td> <td></td> <td>-</td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	出前講座実施回数	目標	-	8		R年度	実績	4	8	-	-	達成率	-	100.0%		-	障がい者差別相談件数	目標	-	30		R年度	実績	28	72	-	-	達成率	-	240.0%		-	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">差別を受けた経験(差別を受けたりいやな思いをした経験の割合)</td> <td>目標</td> <td>-</td> <td>20.0%</td> <td></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>20.9%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>104.5%</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	差別を受けた経験(差別を受けたりいやな思いをした経験の割合)	目標	-	20.0%		R年度	実績	-	20.9%	-	-	達成率	-	104.5%		-		目標				R年度		実績						達成率				
	指標の内容	年度			実績		目標																																																																																		
			H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																			
出前講座実施回数	目標	-	8		R年度																																																																																				
	実績	4	8	-	-																																																																																				
	達成率	-	100.0%		-																																																																																				
障がい者差別相談件数	目標	-	30		R年度																																																																																				
	実績	28	72	-	-																																																																																				
	達成率	-	240.0%		-																																																																																				
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																					
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																				
差別を受けた経験(差別を受けたりいやな思いをした経験の割合)	目標	-	20.0%		R年度																																																																																				
	実績	-	20.9%	-	-																																																																																				
	達成率	-	104.5%		-																																																																																				
	目標				R年度																																																																																				
	実績																																																																																								
	達成率																																																																																								
成果の指標(KPI)																																																																																									

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	健康づくりチャレンジ事業		
所管課	保健福祉局 健康医療部健康増進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成23年度		健康づくりは、市民一人ひとりの取組みが重要であるが、「福岡市民は健康づくりへの意欲は高いが、実際の行動に結びついていない」という調査結果から、市民の関心や意欲を的確にとらえ、健康づくりの実践に結び付けていくことが必要となった。
根拠法令	健康増進法		
行政計画	健康日本21福岡市計画		

基本計画			
施策コード	主	1-3-1	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり		
事業群	ライフステージに応じた健康づくり		
施策成果指標	健康に生活している高齢者の割合(60歳以上で「健康で普通に生活している」と回答した市民の割合)		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	市民
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	市民一人ひとりが自主的に健康づくりに取り組み、住み慣れた家庭や地域で安心して暮らしていく。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①ウォーキングイベント(おもしろいウォーク) 市民の健康づくりへの関心を高め、楽しく健康づくりに取り組んでいたことを目的に、昨年に引き続きタレントの中島浩二氏・こはまもとこ氏をゲストに招いたウォーキングイベントを開催。参加者は531人
	②健康づくりフェスタふくおか 体験を通して自分にあった健康づくりを見つける場として、福岡タワー一帯を会場としたイベントを開催。参加者は2日間で32千人
	③健康づくり月間ほか 健康づくりの機運を高めるために、10月を健康づくり月間と題して集中的に広報を実施。その他、健康づくり・スポーツサイトの運営により、健康づくりの広報・啓発に取り組んだ。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計		13,918	
歳入	特定財源	1,953	
	一般財源	11,965	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	13,971	12,980	
歳入	特定財源	2,107	2,329
	一般財源	11,864	10,651

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・校区衛生連合会等の活動支援 ・正しい健康情報の配信(健康展等の開催) ・区の実情に合わせた、ウォーキング大会の開催やウォーキンググループの活動支援 	市民が健康づくりに興味を持つ。	市民が健康づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに取り組む市民が増え、医療費や介護費用の抑制になる。 ・健康寿命の延伸 		
	指標の内容	実績	目標	実績		
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
健康づくり月間におけるイベント参加者数	目標	30,000	35,000	-	R2年度	
	実績	52,455	58,725	-	-	
	達成率	174.9%	167.8%	-	-	
健康づくりフェスタへの参加者数	目標	20,000	20,000	-	R2年度	
	実績	32,000	32,000	-	-	
	達成率	160.0%	160.0%	-	-	
成果の指標(KPI)	指標の内容	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	健康づくりに取り組んでいる人の割合	目標	60.0	70.0	-	R2年度
		実績	55.5	55.4	75.0	-
		達成率	92.5%	79.1%	-	75.0
健康であると感じている人の割合	目標	76.0	78.0	-	R2年度	
	実績	74.9	74.7	80.0	-	
	達成率	98.6%	95.8%	-	80.0	

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	高齢者元気づくり応援事業		
所管課	保健福祉局高齢社会部 地域包括ケア推進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 市民が日頃から健康づくり・介護予防に取り組めるよう、住民主体の活動を支援する仕組みづくりが求められていた。
開始年度	平成28年度		
根拠法令	介護保険法第115条の45第1項第1号		
行政計画	なし		

基本計画				
施策コード	主	1-3-1		施策成果指標 健康に生活している高齢者の割合
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり			
事業群	ライフステージに応じた健康づくり			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 第1号被保険者のすべての者、及びその支援のための活動に関わる者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 高齢者が容易に通える身近な所に健康づくり・介護予防に取り組める場が増えることで、自ら健康づくり・介護予防に取り組み、自立した生活を続けることができる。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①介護予防活動支援補助金 住民主体で結成され健康づくり・介護予防に取り組むグループに必要な経費の一部を助成する。 ②よかトレ実践ステーション支援事業 健康づくり・介護予防に取り組む自主グループに対し、年に1～2回交流会を開催し、体操メニューの紹介や講話、意見交換を行うことで、取組み継続のモチベーションアップを図る。 ③よかトレ実践サポーター養成事業 介護予防の取組みをサポートする人材を育成するとともに、サポーター自身の生きがいや介護予防につながることを目指す。 ④福岡市介護予防応援WEBサイトによる情報発信
-----------------	--

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	4,893
歳入	特定財源	4,631
	一般財源	262
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	3,783 5,766
歳入	特定財源	3,652 5,053
	一般財源	131 713

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に健康づくり・介護予防に取り組むグループに対し、活動継続。よかトレ認証の支援を行う。 ・市政だより、ホームページ等で広報を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に健康づくり・介護予防に取り組むグループが補助金を利用する。 ・自主グループの活動を継続しようというモチベーションが向上する。 	自主グループの活動が継続され健康の維持増進につながる。	地域で介護予防が推進され、健康寿命の延伸につながる。	
	活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)
			年度	年度	年度
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	介護予防活動支援補助金の申請数(新規)	目標	50	50	R年度
		実績	31	23	-
		達成率	62.0%	46.0%	-
	よかトレ実践ステーション創出校区・地区数	目標	150	151	R年度
		実績	141	149	-
		達成率	94.0%	98.7%	-
	健康に生活している高齢者の割合 ※H28:50.6	実績	-	48.4	-
		目標	-	-	R年度
		達成率	-	-	-

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	特定健診事業・特定保健指導事業	
所管課	保健福祉局生活福祉部 保険医療課	背景
開始年度	平成20年度	
根拠法令	高齢者の医療の確保に関する法律	
行政計画	なし	
		事業を始めた理由(きっかけ)は何か 国の医療制度改革に伴い、平成20年度より医療保険者に実施が義務付けられたもの

基本計画			
施策コード	主	1-3-1	施策成果指標
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり		
事業群	ライフステージに応じた健康づくり		
			特定健診・保健指導実施計画第三期 R5N目標値 特定健診実施率 40% 継続受診率 70% 特定保健指導実施率40%

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	40～74歳の福岡市国民健康保険被保険者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	生活習慣を改善し、生活習慣病の発症や重症化をさせない

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①特定健診を実施し、特定保健指導の対象者を把握し、保健指導を行った。
	②特定健診の受診率向上のため、DMIによる個別勧奨、市政だより等による広報活動、医師会との定例会等による連携を行った。
	③国保連の未受診者医療情報収集事業のシステムを活用し、データ取り込みを効率的に実施した。
	④新たな健診の取り組みとして、他保険者も同会場で受診できる『よりみち健診』を実施した。
	⑤特定健診・特定保健指導等に関する連絡会議を設置し、受診率・実施率向上に向けて協議を行った。また、特定健診・特定保健指導の実施状況を把握するため、医療機関に対してアンケートを実施した。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	711,926
歳入	特定財源	309,092
	一般財源	402,834
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	697,358 816,957
歳入	特定財源	318,641 288,064
	一般財源	378,717 528,893

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																													
	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診 ・特定保健指導 ・特定健診受診率向上のための市民への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診者の増加 ・特定保健指導が必要な人の把握数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善がもたらされ、生活習慣病を発症する人や重症化させる人の増加が抑制される 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費、介護費用の増嵩が抑制される ・高齢になっても元気で暮らせる人が多くなる 																																																													
	活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標																																																									
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>28.0</td> <td>30.5</td> <td></td> <td>R5年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>27.2</td> <td>集計中</td> <td>33.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>97.1%</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	目標	28.0	30.5		R5年度	実績	27.2	集計中	33.0	40.0	達成率	97.1%	-			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>62.0</td> <td>64.0</td> <td></td> <td>R5年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>65.2</td> <td>集計中</td> <td>66.0</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>105.2%</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	目標	62.0	64.0		R5年度	実績	65.2	集計中	66.0	70.0	達成率	105.2%	-				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>30.0</td> <td>32.0</td> <td></td> <td>R5年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>31.2</td> <td>集計中</td> <td>34.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>104.0%</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	目標	30.0	32.0		R5年度	実績	31.2	集計中	34.0	40.0	達成率	104.0%	-		
年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																													
目標	28.0	30.5		R5年度																																																													
実績	27.2	集計中	33.0	40.0																																																													
達成率	97.1%	-																																																															
年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																													
目標	62.0	64.0		R5年度																																																													
実績	65.2	集計中	66.0	70.0																																																													
達成率	105.2%	-																																																															
年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																													
目標	30.0	32.0		R5年度																																																													
実績	31.2	集計中	34.0	40.0																																																													
達成率	104.0%	-																																																															

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	地域との協働による買い物等支援推進事業	
所管課	保健福祉局総務企画部	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
	地域福祉課	
開始年度	平成28年度	背景 超高齢社会が進展し、自らの運転で買い物に行けなくなる者が増えるなど、ますます買い物困難者が増えることが想定されるため、高齢者の買い物などの日常生活を支援する仕組みについて、早急に検討する必要がある。
根拠法令	なし	
行政計画	福岡市保健福祉総合計画	

基本計画		
施策コード	主	1-3-2
	再	
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり	
事業群	生涯現役社会づくり	
施策成果指標	なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	日常の買い物等が困難な高齢者へ支援を希望する地域団体等
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	住民の支え合いの力や企業・事業所・NPO等の多様な主体の参加による、地域資源を活用した買い物支援モデルの構築

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<p>①平成28年度に公募した1地域において、市が地域団体に車両を貸し出し、地域ボランティアの運転、付添いによって、買い物先まで送迎するモデル事業を引き続き実施</p> <p>②買い物支援推進員を社協に配置し、新たに公募した5地域において、企業・事業所等の地域資源の掘り起こしを進め、これと地域をマッチングすることで、地域の特性やニーズに応じた、多様で持続可能な買い物支援の仕組みを構築する事業を開始</p>

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計		14,424	
歳入	特定財源	7,212	
	一般財源	7,212	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計		9,702	18,617
	歳入	特定財源	4,851
		一般財源	4,851

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	買い物支援推進員が、公募したモデル事業の実施地域において、地域に応じた買い物支援が実施されるよう支援を実施	住民の支え合いの力や企業・事業所・NPO等の多様な主体の参加による、地域資源を活用した多様な買い物支援の実施に向けた取り組みがなされる。	地域団体等が、必要な地域で支援を実施するための、持続可能な買い物支援の実施手法や実施地域の特性等が整理される。	持続可能で地域の実情に応じた多様な買い物支援が実施され、高齢者が安心して暮らしつづけられる生活基盤づくりが進む。		
活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
活動の指標	買い物支援の仕組みづくりに取り組む地域団体数	目標	1	5	6	R2年度
		実績	1	6		6
		達成率	100.0%	120.0%		
		目標				R年度
成果の指標(KPI)	多様な買い物支援モデルの構築	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	1	5	6	R2年度
		実績	1	6		6
		達成率	100.0%	120.0%		
成果の指標(KPI)		目標				R年度
		実績				
		達成率				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	健康・社会参加インセンティブ制度検討	
所管課	保健福祉局総務企画部 政策推進課	背景
	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 超高齢社会への対応	
開始年度	平成28年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	

基本計画			
施策コード	主	1-3-2	施策成果指標 なし
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり		
事業群	生涯現役社会づくり		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 健康づくりや地域活動を考えている市民
	対象をどのような状態にしたいのか 個人の特性に応じ、自主的な行動変容が促進されるよう後押しする。
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 市民個々人の関心に応じた健康づくりや地域活動への参加を後押しできるように、市民の健康づくりなどの関心や実施状況を把握するため、アンケート調査を実施し、有識者による分析を行うなど、性年代や趣味・趣向、健康状態など様々な状況の市民の行動変容を促す取組みを検討している。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	7,543
歳入	特定財源	925
	一般財源	6,618
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	4,815 2,340
歳入	特定財源	2,762 1,000
	一般財源	2,053 1,340

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 市民が健康づくりや地域活動・社会参加に取り組むことができる仕組みを検討する。	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか) 市民が健康づくりや地域活動・社会参加に取り組むことができる環境を創出する。	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか) 健康づくりや地域活動・社会参加に取り組むことができる市民が増加する。	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか) 現役世代から健康寿命の延伸や介護予防に努めることで、人生100年時代に向け、市民個々人がいきいきとしたシニアライフを実現できる。 その結果として、医療費や介護費の縮減につながる。																																																																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">活動の指標</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">活動の指標</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	活動の指標	目標				R 年度	実績					達成率					活動の指標	目標				R 年度	実績					達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果の指標(KPI)</td> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>100,000</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>100,000</td> <td>100,000</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果の指標(KPI)</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	成果の指標(KPI)	目標	-	-	100,000	R2年度	実績	-	-	100,000	100,000	達成率	-	-			成果の指標(KPI)	目標				R 年度	実績					達成率				
	指標の内容			年度	実績		目標																																																																															
		H30年度	R1年度		R2年度	最終年度																																																																																
活動の指標	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					
活動の指標	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																		
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																	
成果の指標(KPI)	目標	-	-	100,000	R2年度																																																																																	
	実績	-	-	100,000	100,000																																																																																	
	達成率	-	-																																																																																			
成果の指標(KPI)	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	地域リハビリテーション活動支援事業		
所管課	保健福祉局高齢社会部	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
	地域包括ケア推進課		市民が日頃から健康づくり・介護予防に取り組めるよう、住民主体の活動を支援する仕組みづくりが求められていた。
開始年度	平成29年度		
根拠法令	介護保険法第115条の45第1項第1号		
行政計画	なし		

基本計画				
施策コード	主	1-3-2		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり			
事業群	生涯現役社会づくり			健康に生活している高齢者の割合

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	第1号被保険者のすべての者、及びその支援のための活動に関わる者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	体力評価や運動等の新たな知識を得ることで、自主的に健康づくり・介護予防に取り組む団体が活動を継続することができる。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	健康づくり・介護予防に取り組む自主グループに対し、理学療法士や健康運動指導士等の専門職を年1~2回派遣し、体力評価や新たな体操のメニュー等の紹介等を行った。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	7,057
歳入	特定財源	6,677
	一般財源	380
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	7,430 8,590
歳入	特定財源	7,173 7,514
	一般財源	257 1,076

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	理学療法士や健康運動指導士等の専門職を、健康づくり・介護予防に取り組むグループへ派遣する。	体力評価や運動等の知識の提供を行うことで、参加者自身の取組み継続へのモチベーション維持につながる、また活動のマンネリ化を防ぎ、活動の継続につながる。	自主グループの活動が継続され、健康の維持増進につながる。	健康づくり・介護予防に取り組める場所が増え、地域で介護予防が推進され、健康寿命の延伸につながる。	
	指標の内容	実績		目標	
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度
	目標	180	180		R 年度
	実績	219	256	260	-
	達成率	121.7%	142.2%		-
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
	健康に生活している高齢者の割合 ※H28:50.6	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	-	-	-	R 年度
		実績	-	48.4	-	-
	達成率	-	-	-	-	
	目標				R 年度	
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	超高齢社会対応検討経費（一部・アラカンフェスタ）	
所管課	保健福祉局高齢社会部 高齢福祉課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 超高齢社会の到来に向けてアクティブエイジング(生涯現役社会づくり)を進める必要があったもの
開始年度	平成25年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-3-2	健康に生活している高齢者の割合(平成25年:46.5%, 令和4年:50%)	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり			
事業群	生涯現役社会づくり		施策成果指標	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	60歳前後を中心とした幅広い世代の市民
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	趣味や余暇活動などによって、高齢者が健康で心豊かな生活を送るとともに、知識や経験を活かして、社会や地域の担い手・支え手として意欲的に活躍するようになる。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①退職等で生活スタイルの大きな転換が見込まれる60歳前後のアラカン世代を中心とした幅広い世代に、これからの過ごし方について考え、生きがいとしての就労や、趣味、地域・ボランティア活動などを行うきっかけにもらうイベント「アラカンフェスタ」を企画(イベントは新型コロナウイルス感染症対策のため中止)
	②常設のホームページ等により、イベントの情報発信を行った。
	③60歳前後を中心としたシニアが、自らイベントを企画して地域資源を活かした体験型の教室やビジネス開発などを行う「R60倶楽部」を実施 R60倶楽部の企画の1つとして、六本松蔦屋書店でシニア向けセミナー等を行う「オトナ塾」を火曜日に実施

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	11,194	
歳入	特定財源	5,500
	一般財源	5,694
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	11,000	11,165
歳入	特定財源	5,500 5,500
	一般財源	5,500 5,665

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)		
	○アラカンフェスタの開催 ○常設ホームページによるアラカン情報の配信 ○R60倶楽部の実施	○60歳前後を中心とする多くの市民がアラカンフェスタに参加する。 ○R60倶楽部で60歳前後を中心とする多くの市民が、企画立案者となってイベントを行ったり、企画の参加者になったりする。	○アクティブエイジング(生涯現役社会づくり)の重要性を認識する人が増え、趣味や地域・ボランティア活動などの行動を実際に起こすアクティブシニアが増加する。	○生きがいをもって、いつまでも元気でいきいきと活躍する高齢者(の割合)が増える。		
	指標の内容	実績	目標	実績	目標	
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
活動の指標	「アラカンフェスタ」への来場者数	目標	5,000	6,500	R 年度	
		実績	6,422	0	6,500	-
		達成率	128.4%	0.0%		
		目標	-	-		R 年度
活動の指標	「R60倶楽部」への参加者数	実績	1,694	1,571	前年同数	-
		達成率	-	-		
		目標				R 年度
		実績				
成果の指標(KPI)	60歳以上市民の地域活動参加率(%); 企画調整部実施 「成果指標に関する意識調査について」より	目標	53.0	53.0	59.6	R 年度
		実績	49.5	59.6		-
		達成率	93.4%	112.5%		
		目標				R 年度
		実績				
		達成率				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	地域包括ケア情報プラットフォーム構築事業	
所管課	保健福祉局総務企画部 政策推進課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 行政が保有している様々な情報を有効に活用するため、保健、福祉、医療に関する情報を一元的に集約・管理するとともに分析、評価を行い、エビデンスに基づいた実効性のある施策を立案する必要があるため。
開始年度	平成26年度	
根拠法令	医療介護総合確保促進法	
行政計画	政策推進プラン	

基本計画		
施策コード	主 1-3-3 再	施策成果指標 健康に生活している高齢者の割合(60歳以上で「健康で普通に生活している」と回答した市民の割合)
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり	
事業群	健康先進都市づくり	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 職員、医療・介護関係者、要介護者やその家族等
	対象をどのような状態にしたいのか データを見える化し、地域課題、事業課題を分析、評価することにより、エビデンスに基づいた実効性のある施策の立案実施を可能とするとともに、関係者間での情報共有を図る。
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 保健、福祉、医療等の情報を一元的に集約、管理する「地域包括ケア情報プラットフォーム」を構成する各システムの普及に向けた広報活動や、利用者ニーズを踏まえた機能拡充を行った。
	①データ分析システム「ケアビジョン」 操作方法についての庁内研修会を開催し定着に向けた取組みを実施。また、校区診断シート自動作成機能の供用開始や、ICT戦略課と連携したデータアカデミーの実施、分析結果のオープンデータ公開を開始
	②在宅連携支援システム「ケアノート」 利用者ニーズを踏まえたシステムのバージョンアップにより、タブレット等、使用できるデバイスの充実を図り利用者を拡大
	③情報提供システム「ケアインフォ」 利用者および登録事業者の増加に向け、関係者が集まる会議や市の広報媒体を活用した広報活動を実施

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	47,046		
歳入	特定財源	10,395	
	一般財源	36,651	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳入	歳出合計	61,519	112,891
	特定財源	14,426	11,754
	一般財源	47,093	101,137

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ・保健、福祉、医療等の情報を一元的に集約、管理する「地域包括ケア情報プラットフォーム」を構築し、データを見える化する。 ・データを効果的に利用できる職員の育成。 ・集約されたデータを活用した市民への啓発・情報発信 ・要介護者や家族へのケアノートの周知	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ・見える化されたデータを活用して他地域との比較による地域課題の抽出および事業や施策の課題の抽出ができるようになる。 ・情報共有ツールの参加者が増加する。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 抽出された地域課題や事業課題を分析、評価することにより、エビデンスに基づいた実効性のある施策の立案が可能となるとともに、関係者間での情報共有が図られる。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 在宅の要介護高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を安心して送ることができ、また、効果的、効率的に支援できる社会の実現	
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	目標				R 7年度
データ分析システムの結果を活用した事業の企画・立案数	実績	-	-	-	20
達成率	-	-	-	-	20
各専門職による情報共有ツールへの参加者数(高齢者本人)	目標	5,000	19,000	30,000	R 7年度
実績	12,200	24,000	30,000	60,000	
達成率	244.0%	126.3%			
指標の内容	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
健康に生活している高齢者の割合(3年に1度集計)	目標	-	49.0	-	R 4年度
	実績	-	48.4	-	50.0
	達成率	-	98.8%	-	
最後まで自宅で暮らせる高齢者の割合(翌年9月集計)	目標	11.7	11.7	-	R 2年度
	実績	11.9	集計中	11.7	11.7
	達成率	101.7%	-	-	

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	健康先進都市推進経費	
所管課	保健福祉局総務企画部 健康先進都市推進担当	背景
開始年度	平成28年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か 今後ますます進展する超高齢社会にあって、保健医療福祉施策に求められる制度やサービスが量的・質的にも増大・多様化するため、新たな発想や手法を取り入れ、持続可能な仕組みを構築する必要がある。		

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-3-3	健康に生活している高齢者の割合(60歳以上で「健康で普通に生活している」と回答した市民の割合) (令和4年度目標値:50%)	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり			
事業群	健康先進都市づくり			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市民、企業など
	対象をどのような状態にしたいのか 市民や企業、大学など幅広いプレイヤーが参画し、これまでの行政施策の範疇を超えて新たなサービスなどが導出されることで、市民一人ひとりが心身ともに健康で“自分らしく”生きていける、長寿を心から喜べるまちになっている。
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①「福岡100」プロジェクトの発信 健康先進都市づくりのため、健康・医療・介護だけでなく、住まいや地域づくり、働き方なども含めた、広い意味でのまちづくりを、行政だけでなく市民、企業、大学など幅広いプレイヤーの参画を得ながら推進する「福岡100」プロジェクトとして、市内外へ発信した。 ②福岡100事業の実施 健康づくりに関する産学官民による共働・共創の場「福岡ヘルス・ラボ」の運営や人生100年時代に向けた市民のチャレンジとそれを応援する事業者をつなぐ取り組みである「福岡100PARTNERS」などを実施
----------	---

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	31,117	
歳入	特定財源	15,395
	一般財源	15,722
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H30	R2
歳出合計	24,904	32,594
歳入	特定財源	11,560
	一般財源	13,344

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ○健康先進都市戦略に基づき、産学官民オール福岡で取り組む様々な事業を展開 ○市民や企業の効果的な巻き込みのため、渉外活動や情報発信を行う。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ○福岡市における人生100年時代に向けた行動変容に対する機運が醸成される。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ○市民や企業、大学など幅広いプレイヤーが福岡100の各取組に参画する。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ○行政施策の範疇を超えて新たなサービスなどが導出される。 ○市民一人ひとりが心身ともに健康で“自分らしく”生きていける、長寿を心から喜べるまちとなる。		
	指標の内容	実績		目標		
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	推進	推進	評価	R 年度
		実績	推進	推進		-
達成率	-	-				
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
	目標	-	60	80	R3年度	
	実績	35	60		100	
	達成率	-	100.0%			
目標				R 年度		
実績						
達成率						

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	在宅医療・介護連携推進事業	
所管課	保健福祉局健康医療部 地域医療課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 介護保険法改正に伴い、在宅医療・介護連携推進事業が地域支援事業に位置付けられ、市町村が主体となり、医師会等と連携して取り組むこととされた。
開始年度	平成27年度	
根拠法令	介護保険法、医療介護総合確保促進法	
行政計画	なし	

基本計画				
施策コード	主	1-6-1		施策成果指標 なし
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実			
事業群	地域包括ケアの推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	①市民 ②医療・介護従事者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	①医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられる。 ②在宅療養患者に対し、在宅医療と介護を切れ目なく提供できる。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<p>①検討会議の開催 市医師会と在宅医療について協議する場として在宅医療協議会と、そのワーキンググループである地域包括ケアシステム推進委員会を開催し、在宅医療推進のための取組について検討</p> <p>②在宅医療推進のための取組方針の策定 市医師会、各区医師会が在宅医療を推進する中心的な役割を果たす病院として各区にブロック支援病院をいくつか選定し、医療連携のための取組を開始している。まずは、下記3つのことに取り組むこととしている。 ・在宅医療に携わる医師を増やすための医師間の関係づくりと動機づけ ・在宅医を支える病院のバックアップ体制 ・代診医制度</p> <p>令和元年度は、在宅医療に関わる医師を増やす方策を考えるため、下記に取り組み、在宅医療提供体制の実態を把握。 (1)既存データを用いた福岡市の在宅医療の現状の把握 (2)医療機関向けの在宅医療に関するアンケート調査</p> <p>③在宅医療と介護の連携体制づくり ・社会資源情報ブックの情報更新 ・多職種連携研修会(市医師会に委託して区ごとに実施) ・専門職向けに在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置(市医師会に委託) ・介護施設向けの看取りの研修会を実施。 ・「在宅連携支援システム」(ケアノート)の実証実験を継続実施(政策推進課)</p> <p>④在宅医療に関する市民啓発 ・市民公開講座(市医師会に委託して区ごとに実施) ・在宅医療(費用と制度編)に関するパンフレットの作成 ・在宅医療(費用と制度編)に関する市政だより特集版の作成</p>

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計		47,027
	歳入	特定財源	37,969
		一般財源	9,058
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度		H30
	年度		R2
	歳出合計		45,867
歳入	特定財源	37,670	37,969
	一般財源	8,197	9,051

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー（ロジックモデル）

①活動アウトプット
(どんな活動を行うのか)

在宅療養患者に在宅医療と介護を切れ目なく提供するための施策を検討し実施する。

②結果アウトプット
(活動の結果, どうなるのか)

(市民)
 ・啓発事業に参加する。
 ・パンフレットを読む。
 (医療・介護従事者)
 ・病院を中心とした交流会・情報交換会等に参加する。
 ・社会資源情報ブックやケアノート, 相談窓口を活用する。
 ・研修会に参加する。

③中間アウトカム
(その結果, 対象はどうなるのか)

(市民)
 ・在宅医療への理解が深まり, 在宅医療を受けの人が増える。
 (医療・介護従事者)
 ・在宅医療に携わる医師が増える。
 ・医療・介護従事者の連携が進む。

④最終アウトカム
(その結果, 市としてどうなるのか)

(市民)
 ・医療や介護が必要になっても, 住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることができる。
 (医療・介護従事者)
 ・在宅療養患者に対し, 適切な在宅医療と介護を切れ目なく提供することができる。

指標の内容	年度	実績		目標	
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
市民啓発の実施回数	目標	8	7	7	R3年度
	実績	16	11		7
	達成率	200.0%	157.1%		
多職種連携研修会の実施回数	目標	20	21	21	R3年度
	実績	22	20		
	達成率	110.0%	95.2%		

指標の内容	年度	実績		目標	
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
在宅療養支援診療所の数	目標	-	-	増加	R3年度
	実績	218	228		増加
	達成率	-	-		
最期まで自宅で暮らせる高齢者の割合	目標	11.7	11.7	11.7	R3年度
	実績	11.9	-		
	達成率	101.7%	-		

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

					事業区分	重点																															
事業名	福祉人材確保事業			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">基本計画</th> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">施策コード</td> <td style="text-align: center;">主</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">1-6-1</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">施策成果指標</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">なし</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">再</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">分野別目標</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">施策</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">すべての人が安心して暮らせる福祉の充実</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">事業群</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">地域包括ケアの推進</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			基本計画				施策コード	主	1-6-1		施策成果指標	なし	再			分野別目標		一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている				施策		すべての人が安心して暮らせる福祉の充実				事業群		地域包括ケアの推進			
基本計画																																					
施策コード	主	1-6-1					施策成果指標	なし																													
	再																																				
分野別目標		一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている																																			
施策		すべての人が安心して暮らせる福祉の充実																																			
事業群		地域包括ケアの推進																																			
所管課	保健福祉局高齢社会部 高齢社会政策課																																				
開始年度	平成27年度																																				
根拠法令	社会福祉法、地域における医療及び介護の総合的な確保の推進に関する法律																																				
行政計画	福岡市保健福祉総合計画、福岡市地域包括ケアアクションプラン																																				
	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 2018年5月公表の国推計によると、2025年までに、福岡県において約9,500人（福岡市では約5,500人に相当）が不足すると見込まれ、介護人材の確保は喫緊の課題である。																																			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか A 新規人材参入策の検討：関係団体が主体的に人材確保策を考えるワーキング(全6回)及び関係団体を中心に5つのパイロット事業を実施 B ふくおかカイゴつながるプロジェクト：市内の介護・福祉団体が主体的につながら、自ら魅力に気づき発信する参加型イベントを開催(10/12) C 介護事業所の表彰制度の検討：外部検討委員による制度検討を実施 D 介護の経営力強化研修：経営層向けに講座(全10回)を実施 E 介護ロボット・IoT導入支援(モデル事業)：3つのモデル事業所にコンサルタントを派遣し、組織改革支援及び業務の切り分けを実施 F 現場スタッフの対話の場づくり支援：事業所をこえた対話の場づくりができる人材を育成するための講座を開催(全6回)																							
	①介護の仕事を探している人、関心がある人 ②介護事業所の経営者・管理者 ③介護現場で働く人																									
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか																									
	①介護の仕事に魅力を感じ働いてみたいと感じる人が増えている。 ②働きやすい職場環境をつくれる経営者が増えている。 ③介護の仕事を続けたいという人が増えている。																									
			事業費(千円) 令和元年度決算額(見込額) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">歳出合計</td> <td style="text-align: right;">17,958</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">歳入</td> <td style="text-align: center;">特定財源</td> <td style="text-align: right;">12,812</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一般財源</td> <td style="text-align: right;">5,146</td> </tr> </table> 前年度決算額・翌年度予算額 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">H30</th> <th style="text-align: center;">R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">歳出合計</td> <td style="text-align: right;">14,109</td> <td style="text-align: right;">27,243</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">歳入</td> <td style="text-align: center;">特定財源</td> <td style="text-align: right;">9,676</td> <td style="text-align: right;">12,849</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一般財源</td> <td style="text-align: right;">4,433</td> <td style="text-align: right;">14,394</td> </tr> </tbody> </table>	歳出合計		17,958	歳入	特定財源	12,812	一般財源	5,146			H30	R2	歳出合計		14,109	27,243	歳入	特定財源	9,676	12,849	一般財源	4,433	14,394
歳出合計		17,958																								
歳入	特定財源	12,812																								
	一般財源	5,146																								
		H30	R2																							
歳出合計		14,109	27,243																							
歳入	特定財源	9,676	12,849																							
	一般財源	4,433	14,394																							

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) A ワーキングとプロジェクトを実施 B 魅力発信イベントの開催 C 表彰制度の検討 D 経営力強化研修の実施 E 介護ロボット・IoT導入支援 F 対話の場づくり講座の開催	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ①介護の仕事の魅力を一体的・効果的に発信できる。 ②経営者・管理者のマネジメント能力が向上する。 ③介護従事者のモチベーションが向上する。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ①介護業界への新規参入者が増える。 ②職員が生き活きと働ける職場が増える。 ③離職者が減少するとともに、介護サービスの質が向上する。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 2025年末までに、新たに約5,500人の人材が確保でき、市内事業所における介護サービスの適切な提供や、介護の質の維持・向上が図られる。																																																																															
	活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center;">指標の内容</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">年度</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">実績</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">目標</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">H30年度</th> <th style="text-align: center;">R1年度</th> <th style="text-align: center;">R2年度</th> <th style="text-align: center;">最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3"></td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度		目標				R 年度	実績					達成率						目標				R 年度	実績					達成率					成果の指標(KPI)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center;">指標の内容</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">年度</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">実績</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">目標</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">H30年度</th> <th style="text-align: center;">R1年度</th> <th style="text-align: center;">R2年度</th> <th style="text-align: center;">最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">介護人材の不足を感じる事業所の割合(%)</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">58.0</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">57.0</td> <td style="text-align: center;">R7年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">59.0</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">52.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">達成率</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">介護職の離職率(%)</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20.0</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">19.0</td> <td style="text-align: center;">R7年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">20.9</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">16.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">達成率</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	介護人材の不足を感じる事業所の割合(%)	目標	-	58.0	57.0	R7年度	実績	59.0	-	52.0	達成率	-	-		介護職の離職率(%)	目標	-	20.0	19.0	R7年度	実績	20.9	-	16.0	達成率	-	-
指標の内容	年度	実績			目標																																																																														
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																														
	目標				R 年度																																																																														
	実績																																																																																		
	達成率																																																																																		
	目標				R 年度																																																																														
	実績																																																																																		
	達成率																																																																																		
指標の内容	年度	実績		目標																																																																															
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																														
介護人材の不足を感じる事業所の割合(%)	目標	-	58.0	57.0	R7年度																																																																														
	実績	59.0	-		52.0																																																																														
	達成率	-	-																																																																																
介護職の離職率(%)	目標	-	20.0	19.0	R7年度																																																																														
	実績	20.9	-		16.0																																																																														
	達成率	-	-																																																																																

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	外国人介護人材受入支援事業		
所管課	保健福祉局 高齢社会部 高齢社会政策課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	令和元年度		2018年5月公表の国推計によると、2025年までに、福岡県において約9,500人(福岡市では約5,500人に相当)が不足すると見込まれ、介護人材の確保は喫緊の課題である。
根拠法令	社会福祉法、地域における医療及び介護の総合的な確保の推進に関する法律		
行政計画	福岡市保健福祉総合計画、福岡市地域包括ケアアクションプラン		

基本計画			
施策コード	主	1-6-1	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実		
事業群	地域包括ケアの推進		

施策成果指標
なし

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	①外国人介護人材を受け入れる事業所 ②外国人介護人材(候補者を含む) ③受入に関係する中間団体(監理団体、教育訓練機関等)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	①外国人人材の受入が進み、外国人と働くことが当たり前になっている。 ②福岡市で働き(続け)たいと思う外国人が増え、また、母国へ戻った後、その経験を活かし専門職として働く人が増えている。 ③外国人人材自身や、受入事業所の双方にメリットがある支援を行う団体が増えている。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①官民一体のプラットフォーム形成 受入法人、関係団体、行政等の対話の場づくりとして、外国人介護人材受入のための「プラットフォーム」を設け、情報・課題・事例の共有や意見交換、ネットワーク作りを実施(6/5, 11/18)
	②外国人介護人材受入モデル事業 ミャンマーとの間で、市内事業所の視察団派遣(7/29~8/2)、現地関係団体の招聘(11/16~11/20)を実施
	③日本語学習支援 介護現場の日本語に困難を感じる外国人を対象に、日本語学習支援を実施(年6回)

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		2,248
歳入	特定財源	900
	一般財源	1,348
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計		— 10,127
	歳入	特定財源
一般財源		— 9,227

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	①プラットフォーム会合の実施 ②ミャンマーへの派遣、受入 ③介護の日本語講座の実施	①②外国人介護人材の受入に関心があるもしくは積極的な事業所の増加 ③外国人介護人材の日本語能力の向上と、外国人同士の交流の増加	2025年までに、延べ約810人の外国人介護人材(在留資格問わない)が、市内介護事業所で新たに受け入れられている(または受入が決定している)。	必要な介護人材が確保され、介護サービスを適切に提供することができている状態になる。	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
活動の指標	プラットフォーム会合の実施回数	目標	—	2	R 年度
		実績	—	2	2
		達成率	—	100.0%	—
		目標	—	50	R 年度
日本語学習支援人数	実績	—	11	60	—
	達成率	—	22.0%	—	

成果の指標(KPI)	新たな外国人介護人材確保数	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	—	30	60	R7年度
		実績	—	184	60	180
		達成率	—	613.3%	—	
活動の指標		目標	—	—	—	R 年度
		実績	—	—	—	
		達成率	—	—	—	

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	地域包括ケアシステム推進事業・地域ケア会議・地域ネットワーク支援事業		
所管課	保健福祉局高齢社会部 地域包括ケア推進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成24年度		平成23年6月改正の介護保険法に地域包括ケアの理念が規定されたことを受け、第5期介護保険事業計画(H24～H26年度)に地域包括ケアシステムの構築を位置付け、取組みを開始
根拠法令	介護保険法第5条3項、第115条48項		
行政計画	保健福祉総合計画、第6期介護保険事業計画		

基本計画			
施策コード	主	1-6-1	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実		
事業群	地域における総合的な福祉サービスの構築		
		施策成果指標	福祉の充実に対する満足度(H28年度50%, R4年度65%)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	・市民 ・保健福祉等の関係機関・団体、事業所、専門職(以下「関係機関等」)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	・市民が住み慣れた地域で、必要に応じて公的サービスを利用し、また、地域で支え合いながら、安心して暮らしている。 ・関係機関等が十分に連携して市民の自立生活に資する事業活動を行いつつ、地域とともに支え合いなどの公益活動に取り組んでいる。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①市民・専門職を対象に、下記を実施
	・地域ケア会議の周知啓発(個別啓発・地域に情報提供等) ・市民・専門職向けの地域包括ケア講座等 ・各区で市民向けの啓発イベントを実施
	②関係機関等と連携し、下記を実施
	・医療介護連携の重層的なネットワークづくり ・地域ケア会議5階層で高齢者支援、課題把握、取組検討 ・地域ケア会議で関係機関等の進捗管理、連携推進 ・市民・専門職向けの地域包括ケア講座等の実施
	③自立支援型地域ケア会議の全市展開に向けたスキーム構築
	・市職員、地域包括支援センター職員、介護支援専門員、医療の専門職などを対象とした研修会の充実(高齢者支援力向上) ・提供事例の効果検証、全市展開のスキームづくり

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	50,618
歳入	特定財源	37,235
	一般財源	13,383
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	52,163 54,089
歳入	特定財源	38,547 35,537
	一般財源	13,616 18,552

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	<p style="text-align: center;">①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を市民に周知啓発 ・地域ケア会議を重層的に実施 ・地域ケア会議で関係機関等の取組共有 ・市民や専門職へ地域包括ケアの講座実施 ・関係機関等との意見交換を実施 	<p style="text-align: center;">②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議開催で高齢者支援が増える。 ・地域ケア会議開催で課題を把握できる。 ・市民や関係機関等が、予防・地域活動等の重要性に気づく。 ・講座開発や講師経験等を通して、関係機関等と市民の間の連携が進む。 	<p style="text-align: center;">③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関等で、公助・共助の充実等への検討が進む ・関係機関等の地域での公益活動参加が増える ・地域主体の支え合いが増える 	<p style="text-align: center;">④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)</p> <p>高齢になっても安心して地域で暮らすことができ、福祉の充実に対する満足度が向上する</p>			
	活動の指標	指標の内容	実績		目標		
			年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		地域ケア会議(5階層)の開催回数	目標	858	738		R 年度
実績			724	680	760	-	
達成率	84.4%		92.1%				
自立生活の啓発活動、専門職の理念共有の講座の実施回数	目標	20	40		R 年度		
	実績	36	27	29	-		
	達成率	180.0%	67.5%				
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標			
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
	個別支援会議の開催数(件)	目標	-	-		R 年度	
		実績	-	-	500	-	
達成率		-	-				
地域包括ケアアクションプラン参加団体数	目標	16	20		R 年度		
	実績	20	20	20	-		
	達成率	125.0%	100.0%				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	認知症施策推進事業		
所管課	保健福祉局高齢社会部 認知症支援課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成30年度		増加する認知症に対応するため、平成30年度より認知症施策全体を「認知症フレンドリーシティプロジェクト」として推進しており、このプロジェクトの新たな取組みとして本事業を開始
根拠法令	なし		
行政計画	なし		

基本計画				
施策コード	主	1-6-1		施策成果指標 ○福祉の充実に対する満足度(令和4年度目標値:65%)
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実			
事業群	地域包括ケアの推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	認知症当事者やその介護者を中心とした市民全体
	対象をどのような状態にしたいのか	認知症当事者の症状の安定や、介護する家族等の負担軽減を図るとともに、多くの市民が認知症について理解すること
事業目的		

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①ユマニチュードの普及促進 対象に応じてSTEP1(知る), STEP2(学ぶ), STEP3(実践する)の講座へと整理。特にSTEP1については講師役となる地域リーダーを福岡市で独自に養成し、普及の拡大を図った。
	②認知症の人にもやさしいデザインの手引きの策定 認知症の人がストレスなく安心して生活できる住環境を整備することを目的として、R元年度には公民館へのデザインの試験導入等を行いながら、R2.3月に策定完了した。
	③ICTを活用した認知症の早期発見事業 認知機能の簡易検査ができるタブレット端末を活用し、健康イベント等で簡易検査を実施。認知症予防に関する啓発を行うとともに、認知症が疑われる人の早期対応にかかるフォローを行った。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	35,528
歳入	特定財源	10,460
	一般財源	25,068
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	48,092 23,158
歳入	特定財源	19,360 8,975
	一般財源	28,732 14,183

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)	
	○ユマニチュードの講座実施等による普及啓発 ○認知症の人にもやさしいデザインの普及啓発 ○健康イベント等における物忘れチェックの実施	○多くの市民がユマニチュードの講座を受講している。 ○多くの施設や住宅において認知症デザインが導入されている。 ○健康イベント等の参加者が物忘れチェックを行っている。	○ユマニチュードや認知症デザインの普及により、周囲の人の接し方や住居や外出先などの建物の環境が改善など認知症になっても暮らしやすい環境整備が促進される。 ○認知症の早期発見・早期対応が図られるとともに、多くの市民が認知症予防に関する活動を行っている。	認知症の人が安心して生活することができるまちとなっている。	
	活動の指標	指標の内容	年度	実績	目標
			H30年度	R元年度	R2年度
	ユマニチュード講座の実施回数	目標	-	50	R7年度
		実績	27	40	50
		達成率	-	80.0%	
		目標			H年度
		実績			
		達成率			
		目標			R年度
		実績			
		達成率			

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	認知症カフェ設置促進事業	
所管課	保健福祉局高齢社会部 認知症支援課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 高齢化が進み認知症高齢者も増加。認知症高齢者を介護する家族の負担軽減を図る必要があった。
開始年度	平成30年度	
根拠法令	介護保険法第115条の45第2項第5号 (地域支援事業 包括的支援事業)	
行政計画	なし	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-6-1		施策成果指標 福祉の充実に対する満足度(平成34年度目標値:65%)
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実			
事業群	地域包括ケアの推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 認知症の人や認知症の人を介護する家族、専門職、地域住民等
	対象をどのような状態にしたいのか 認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報共有し、お互いを理解し合う認知症カフェの設置を促進することで、認知症の人への効果的な支援や家族の介護負担の軽減を図るもの
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①認知症カフェ設置促進のため補助金の交付を行った。
	②認知症カフェについて、地域団体や介護事業所等に説明を行った。
	③認知症カフェについて周知するため、活動内容を一覧にまとめ、市ホームページに掲載した。
	④認知症の人や家族の身近な相談役として、認知症ライフサポートワーカーを養成した。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	1,683	
歳入	特定財源	1,493
	一般財源	190
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	1,896	5,026
歳入	特定財源	1,709 4,059
	一般財源	187 967

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ・認知症カフェを設置しようとする団体に対し補助金を助成し、認知症カフェの設置を促す。 ・認知症ライフサポートワーカー養成研修を開催	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ・身近な場所に認知症カフェが開設される。 ・認知症ライフサポートワーカーが養成される。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ・認知症の人や認知症の人を介護する家族が認知症カフェを居場所や相談の場所として利用することで、認知症の人のQOLの向上や家族の介護負担が軽減できる。 ・認知症の人や認知症を介護する家族が認知症ライフサポートワーカーに相談し、不安などを解消することができる。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 認知症の人やその家族が地域で安心して暮らせる。	
	活動の指標	指標の内容	実績	目標	
		年度	H30年度 R1年度 R2年度 最終年度		
	認知症カフェの設置数	目標	50 54	61	R4年度
		実績	29 36		144
達成率		58.0% 66.7%			
認知症ライフサポートワーカー	目標	20 40	60	R3年度	
	実績	20 35		60	
	達成率	100.0% 87.5%			
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標		
	年度	H30年度 R1年度 R2年度 最終年度			
認知症の人が安心して暮らせるまちと思う人の割合	目標	- 54.7%	50.0%	R 年度	
	実績	- 46.5%		-	
	達成率	- 85.0%			
	目標			R 年度	
	実績				
	達成率				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	認知症本人のピアサポート活動支援事業	
所管課	保健福祉局高齢社会部 認知症支援課	背景
開始年度	令和元年度	
根拠法令	認知症対策等総合支援事業の実施について(厚生労働省老健局長通知)	
行政計画	福岡市高齢者保健福祉計画	
		事業を始めた理由(きっかけ)は何か
		○2016年1月認知症施策総合戦略(新オレンジプラン)において、「本人の視点重視」が施策の重要な柱として位置付けられる。 ○2019年認知症施策推進大綱, 認知症総合戦略推進事業において, 認知症本人のピアサポート活動が位置づけられた。

基本計画			施策成果指標
施策コード	主 再	1-6-1	
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実		
事業群	地域包括ケアの推進		
			福祉の充実に対する満足度(平成34年度目標値:65%)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	認知症当事者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	認知症本人が同じ立場にある認知症当事者と交流し, 必要な方へ自身の経験を踏まえ相談に応じることにより, 認知症本人も当事者の暮らしを支える担い手として活動できる。

実施内容(手段)	R1年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①認知症の本人が集い, 本人同士が主になって一緒に話し合う, 認知症本人ミーティングの開催 R1年度 3回 (本人参加者) 実 8人 延 14人
	②企業や市民に認知症の声を発信できる機会を設定 R1年度 9回
	③本人ミーティングに併設し, 認知症の本人が認知症と診断された人の相談を受ける場を開設 R1年度 希望者なしのため実績なし

事業費(千円)			
R1年度決算額(見込額)			
歳出合計		141	
歳入	特定財源	207	
	一般財源	▲ 66	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計		-	646
歳入	特定財源	-	323
	一般財源	-	323

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)		③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)							
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症当事者同士が本音を語り合う。 認知症当事者が企業や市民に声を発信する。 認知症当事者が認知症の方の相談にのる(ピア活動)。 		<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人が活躍できる場が増える。 他の同じ立場にある人が早期に不安を軽減できる。 認知症当事者の声が地域や企業などへ届く。 		<ul style="list-style-type: none"> 認知症当事者が住み慣れた地域の中で, 自己実現しながら生活できる。 認知症本人も当事者の暮らしを支える担い手として活動できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 必要なニーズを把握し社会資源の構築につながる。 ピア活動自体が認知症の方の生活を豊かにする社会資源の一つとなる。 							
	活動の指標	指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	年度	実績		目標	
		本人ミーティング本人参加者数	目標	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度		認知症の人が安心して暮らせるまちと思う人の割合	目標	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
			実績			25				実績		54.7%	50.0%	
達成率				56.0%			達成率				85.0%			
認知症本人の声を共有する場の実施回数	目標		7			目標								
	実績		9	7		実績								
	達成率		128.6%			達成率								

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	障がい者の地域生活支援機能強化事業		
所管課	保健福祉局障がい者部 障がい者支援課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成29年度		障がい者の重度化・高齢化や「親なき後」の地域生活も見据えた総合的な支援体制構築のため、障がい者の地域生活支援機能の強化を図ることを目的に開始
根拠法令	障がい者総合支援法		
行政計画	福岡市保健福祉総合計画		

基本計画				
施策コード	主	1-6-2		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実			
事業群	障がい者の自立と社会参加の支援			・福祉の充実に対する満足度 ・障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じている市民の割合

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	障がい者及びその家族
	対象をどのような状態にしたいのか	障がい者の重度化・高齢化、「親なき後」を見据えた総合的な支援体制が構築されることにより、親元からの自立や、施設等からの地域生活への移行が促される等、障がい者が在宅で安心して生活できる状態
事業目的		

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	24時間対応の相談体制や緊急時の受入れ拠点の確保など「地域生活支援拠点等」を整備
	【実施内容】	①地域生活支援拠点等の整備に伴う緊急時の受入れ・対応機能の確保
		②高度な支援スキルを有する人材の育成(医療的ケア児コーディネーター養成事業)
		③訪問型在宅レスパイト事業
		④コミュニケーション支援員派遣事業

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	47,649
歳入	特定財源	22,367
	一般財源	25,282
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	36,949 79,905
歳入	特定財源	15,721 54,373
	一般財源	21,228 25,532

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点等の整備に伴う緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場の確保 ・高度な支援スキルを有する人材の育成 ・コミュニケーション支援員等派遣事業 ・訪問型在宅レスパイト事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時受入れ拠点や、体験の機会・場、訪問型在宅レスパイト事業等について周知され、障がい者が必要な時に利用できる体制が整備される。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の重度化・高齢化、「親なき後」を見据えた総合的な支援体制が構築されることにより、親元からの自立や、施設等からの地域生活への移行が促される等、障がい者が在宅で安心して生活できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者が必要な支援を受けながら、自らの能力を最大限発揮し、地域や家庭でいきいきと生活できる。 			
	活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		緊急時受入れ拠点整備箇所数	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
			目標	3	3	3	R年度
実績			3	3	-	-	
達成率	100.0%	100.0%	-	-			
目標				R年度			
実績							
達成率							
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標			
	地域生活支援拠点整備箇所数	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
		目標	7	7	7	R年度	
		実績	7	7	-	-	
達成率	100.0%	100.0%	-	-			
目標				R年度			
実績							
達成率							

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	障がい者グループホーム設置促進等事業	
所管課	保健福祉局障がい者部 障がい福祉課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 施設に入所または病院に入院している障がい者の地域生活への移行を促進させるため
開始年度	平成15年度	
根拠法令	福岡市障がい者グループホーム設置費補助金交付要綱等	
行政計画	第5期福岡市障がい福祉計画	

基本計画		
施策コード	主 再	1-6-3
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
施策	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実	
事業群	障がい者の自立と社会参加の支援	
施策成果指標	なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 障がい者グループホームの開設を希望する社会福祉法人等
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 障がい者グループホームの開設に必要な情報が常時入手可能であり、希望する不動産物件がすみやかに見つかるとともに、必要に応じて、建築基準法上の用途変更について要件緩和の恩恵を受ける、補助申請により開設経費の負担が軽減される等、希望すればスムーズに障がい者グループホームが開設できる状態

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①「福岡市障がい者グループホーム開設応援サイト」の運用 同サイトを市HP上に設置し、不動産物件の紹介等の協力が可能な宅地建物取引業者を「不動産協力店」として登録し、開設希望法人が求める物件情報等とのマッチングを支援するなど、開設に役立つ法人向け情報を提供 ②GH設置にかかる補助金(市単費)の交付 ③社会福祉施設等整備費補助(国2/3, 市1/3)の施設選定及び補助金の交付 ④市営住宅を活用したグループホームの開設支援 住宅都市局と連携し市営住宅を活用したグループホームの開設を支援 ⑤市営住宅建替えに伴う市有剰余地の活用や運営費補助制度の創設など、重度障がい者向けGHの設置促進に向けた検討
----------	--

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	392,334	
歳入	特定財源	245,387
	一般財源	146,947
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	42,660	100,810
歳入	特定財源	17,039 67,812
	一般財源	25,621 32,998

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)																																																																																		
	▶	▶	▶	▶																																																																																		
活動の指標	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ・「福岡市障がい者グループホーム開設応援サイト」において開設に必要な情報を提供する。 ・「不動産協力店」と開設希望法人とのマッチングを支援する。 ・補助制度を周知する。 ・市住及び市営住宅建替えに伴う市有剰余地活用について関係各局と連携を図る。	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか) ・「グループホーム開設応援サイト」から開設に必要な情報が入手され、併せて申請した宅地建物取引業者が「不動産協力店」として登録され、開設希望法人が求める不動産物件の情報とともに上記サイト上に公開される。 ・補助金の交付申請が行われる。 ・市営住宅や市有剰余地にグループホームが開設される。	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか) ・「開設応援サイト」の利用により、開設に必要な情報がいつでも入手可能となり、また、希望する不動産物件が見つかりやすくなる。 ・開設に必要な経費の負担が軽減される。	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか) ・市内における障がい者グループホームの開設が進み、設置数(定員数)及び利用者数が増加する。 ・施設に入所または病院に入院している障がい者の地域生活への移行が促進される。																																																																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">市営住宅を活用したグループホームの利用定員(単位:人)</td> <td>目標</td> <td>44</td> <td>44</td> <td rowspan="3">48</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>88.6%</td> <td>88.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	市営住宅を活用したグループホームの利用定員(単位:人)	目標	44	44	48	R 年度	実績	39	39	-	達成率	88.6%	88.6%			目標				R 年度		実績						達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">共同生活援助(グループホーム)の利用量(単位:人/月)</td> <td>目標</td> <td>1,000</td> <td>1,100</td> <td rowspan="3">1,200</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1,024</td> <td>1,136</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>102.4%</td> <td>103.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	共同生活援助(グループホーム)の利用量(単位:人/月)	目標	1,000	1,100	1,200	R 年度	実績	1,024	1,136	-	達成率	102.4%	103.3%			目標				R 年度		実績						達成率				
指標の内容	年度			実績		目標																																																																																
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																	
市営住宅を活用したグループホームの利用定員(単位:人)	目標	44	44	48	R 年度																																																																																	
	実績	39	39		-																																																																																	
	達成率	88.6%	88.6%																																																																																			
	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																		
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																	
共同生活援助(グループホーム)の利用量(単位:人/月)	目標	1,000	1,100	1,200	R 年度																																																																																	
	実績	1,024	1,136		-																																																																																	
	達成率	102.4%	103.3%																																																																																			
	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					